

令和5年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数		到達率 [肯定評価(A、B)の割合]						
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				教職員14 生徒115 保護者101 地域住民46		アンケート結果(人数)						
重点目標	評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び 改善策等<◆>		評価資料	到達率	A	B	C	D	?
確かな学力の定着と向上	指導方法の改善・充実 分かる授業の充実に努めている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇評価者のいずれも80%以上の肯定率であった。教職員は分かる授業に努めており、それが生徒・保護者へも伝わっていることがうかがえる。一方で、授業が分かりにくい生徒がおり、そのため保護者も否定的な回答となっていると思われる。 ◆興味・関心を高める授業づくりとともに、振り返りや復習の充実により、基礎・基本の定着を図る。また、小テスト等により生徒の困り感を把握し、個別指導に生かす必要がある。	教職員	1	100%	8	7	0	0	
				保護者	1	89%	17	53	8	1		
				生徒	1	95%	43	73	5	1		
		年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。生徒・保護者ともにD評価が0になった。また、肯定率の割合が、保護者は中間期89%から年度末90%に、生徒は中間期の95%から97%になり、改善が見られた。授業に丁寧に取り組んだ結果であるとともに、授業参観等、授業の実際を公開できた成果であると思われる。 ◆今後も継続して、興味・関心を高める授業づくりを実践するとともに、振り返りや復習の充実により、基礎・基本の定着を図る必要がある。	教職員	1	100%	7	7	0	0	
				保護者	1	90%	15	76	10	0		
				生徒	1	97%	44	67	4	0		
	ICTの活用	ICTを効果的に活用するなど、授業にICTを積極的に取り入れている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇アンケート結果の肯定率は、教師100%、生徒86%と、どちらも目標値に到達することができた。日々の授業において、教職員や生徒は、ICT機器や思考ツール、班活動を取り入れた対話的な学習を積極的に行うことができた。 ◆教師・生徒は現在の取組を継続しつつ、更に効果的なICTの活用について研究を行う。	教職員	2	100%	6	9	0	0
					生徒	2,3	86%	87	122	33	2	
			年度末	A	◇教職員・生徒のいずれも目標値に達しているためA評価である。「えひめICT学習支援システム」EILS(エイリス)の利用率も上がっており、効果的な学習活動ができたと思われる。 ◆今年度は道徳の研究発表が終わり、道徳の授業でのICT活用場面がやや減ってきた。EILSの活用は増えてきたが、すべての教科、全ての教員が使いこなせるようになることも必要である。	教職員	2	93%	5	8	1	0
					生徒	2,3	85%	83	113	32	2	
基礎・基本の定着	基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定・小テストや単元テスト平均70	中間期	B	◇教職員の結果では肯定が100%になっているが、生徒はわずかに届かず、保護者の結果は昨年度よりも下がっている。授業内での発表や小テストは頑張ることができているが、学力の定着につながっていないと感じているのではないかと。また、極端に教職員の評価が高くなっていることから、教師が教えたつもり、分かったつもり、になっているとも考えられる。 ◆学級や生徒の様子に応じて、授業展開や発問の仕方、課題の出し方を工夫する。小テスト等を活用し、基礎・基本の学習内容の定着を確認し、授業等に生かす。	教職員	3,5	100%	10	20	0	0	
				保護者	2	72%	12	45	17	5		
				生徒	4	76%	37	56	24	5		
		年度末	B	◇保護者が目標値に達していなかったためB評価である。中間期と同様に教職員は基礎・基本の定着を目指した授業展開に努めている。また、全教科ではないが、小テストや授業後の振り返りも行うことができています。教師と保護者・生徒との数値に開きはありますが、中間期と比較した場合、基礎・基本が身に付いたと実感した生徒が増えたものと考えられる。 ◆生徒の側に立った分かる授業や振り返りを重視する。また、小テストを定期的実施したり振り返りテスト等を行ったりと、基礎・基本を更に定着できるような手立ての充実を図る。	教職員	3,5	100%	9	5	0	0	
				保護者	2	73%	13	61	26	1		
				生徒	1,2	84%	38	59	16	2		
家庭学習の習慣化	生徒に家庭学習の習慣が身に付いている。 目標値:家庭学習時間毎日90分以上(塾での時間も含む)達成80%以上	中間期	C	◇昨年度中間期よりも教職員・保護者の二者が下がり、特に教職員は30%ほど大きく低下した。教職員は、課題の与え方や量などを改善する必要があると考える。また、生徒は「宿題を忘れても何とかできるだろう。」「宿題忘れぐらい大丈夫!」など、宿題や提出物に対する意識が低いのではないかとと思う。 ◆ク롬ブックを持ち帰り、ドリルパークやclassroomの課題提出などを活用することで、宿題をしていることが保護者にも分かるのではないだろうか。また、保護者と一緒に行える課題を与えるなどの工夫も必要ではないだろうか。	教職員	4	53%	1	7	6	1	
				保護者	3	53%	11	31	25	12		
				生徒	5	64%	19	59	37	7		
		年度末	B	◇教職員は目標値に達しているものの、保護者は60%未満、生徒は80%未満であるため、B評価とした。教職員は、診断テストや単元テスト、日々の漢字テストなどが結果につながってきていることから100%となったと考えられる。保護者・生徒に関しては、微増にとどまっている。期末テスト期間中の調査であったが、家庭学習が十分でない実態がうかがえる。 ◆生徒が家で学習する姿を見せる。そのための、課題の与え方の工夫を教職員がしていく必要がある。また、中間期にもあるが、保護者を巻き込んだ課題を課すことをしていく。	教職員	4	100%	14	14	0	0	
				保護者	3	57%	15	43	27	16		
				生徒	5	67%	24	53	32	6		
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法やICTの活用は一定の成果が出ているので、今後も継続した取組を期待したい。 基礎・基本の定着や家庭学習の習慣化については、一人ひとりを大切にしたいきめ細かな対応を期待する。ク롬ブック等でのドリル学習や苦手分野の重点的な取組、データの蓄積等、ICTの更なる活用の余地があるのではないかと。 家庭学習の習慣化について、評価が毎回C評価となっている。目標値を下げてもよいのではないかと。 			学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用が目的ではなく、あくまでも手段(方法)であることを再確認したうえで活用していく。それを踏まえて、従来の学習とICTとのベストミックスな学びを探っていく。 基礎・基本の定着に向けて、ドリル学習や個別指導の充実を図る。 家庭学習の習慣化について、キャリア教育の一環として大切を守ろうとする生徒の育成を図る。また、家庭学習時間の目標値については、来年度への検討課題とする。 							
学校運営協議会委員の所見(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な項目について評価が向上してきており、中間期に比べ、保護者・生徒の評価も高くなっていて、家庭で学習できている様子が感じられる。 「基礎・基本の定着」「家庭学習の習慣化」は毎年の課題である。少人数指導の更なる充実によって改善できるのではないかと。生きる力を身に付けさせてほしい。 学力の向上の達成度を計るためには、全国学力テストや県学力診断検査の比較や推移など、客観的なデータや数値目標があってもいいのではないかと。 			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 今後もICTを活用し分かる授業に取り組むとともに、個別学習等の充実によって学力向上に努める。 少人数指導については、教員の編成によって大きく変わるものの数学科、英語科においてはできる限り取り組んでいきたい。また、引き続き提出物の大切を守る習慣を身に付けさせることを通して、将来に向けた生きる力の育成を図る。 「基礎・基本の定着」の評価指標として、学校運営協議会より指摘のあった全国学力学習調査や県学力診断検査の結果を取り入れることを前向きに検討していく。 							

令和5年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数		評価資料							
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				教職員14 生徒115 保護者101 地域住民46				到達率 [肯定評価(A,B)の割合]					
重点目標		評価指標 及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び改善策等<◆>				アンケート結果(人数)				
									A	B	C	D	?
生徒指導の徹底と健全育成	生徒の健全育成	生徒理解に努め、生徒の課題に積極的に対応している。	中間期	A	◇各行事(修学旅行や集団宿泊研修)を通して、よりよい集団づくりを進めることができた。SNSの利用について各家庭でルールを定めているが、使い方や使用時間等についてルールやマナーを守れていない生徒がいるのではないかな。不登校傾向にある生徒に対して、SWやSCをはじめ、多くの教職員や関係機関と連携して対応することができている。 ◆少数ではあるが、保護者、生徒における否定的な回答に対して、日頃からの生徒の様子に気を配ることが大切である。また、すべての教育活動で、生徒の発達段階に応じた適切な指導を行っていく必要がある。特にSNSの利用と身だしなみについては、日々の指導を粘り強く継続するとともに、家庭との連携や見守り体制を継続していくことが大切である。	教職員	6.7	100%	10	20	0	0	
		いじめがなく、認め合い支え合う集団づくりに努めている。	年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。2学期に行われた大きな行事(運動会・文化祭等)では概ね目標が達成でき、生徒同士で協力合ったり、支援合ったりしながら活動する姿が見られた。SWやSC、養護教諭と連携した対応によって、不登校傾向の生徒ともコミュニケーションが取れる関係を維持できている。 ◆2、3年生に欠席日数、遅刻回数が増加した生徒がいる。家庭での生活習慣や生徒同士の人間関係など、様々な要因が考えられる。今後も、家庭と連携を密にしてより良い方向への支援を続けたい。来年度に向けての校則の一部見直しに向けて、具体的な計画(流れ)を考えなくてはならない。	教職員	6.7	100%	8	20	0	0	
		目標値:アンケート結果80%以上肯定				保護者	4.5	90%	50	92	13	3	
						地域住民	5.6	99%	40	50	1	0	9
	道徳教育の充実	自立心や自律性、規範意識など豊かな人間性を持った生徒を育てている。	中間期	A	◇昨年度の「特色ある道徳教育推進事業」での取組を通して、以前よりも道徳科に対する教職員の意識も向上している。生徒も道徳の授業を楽しみにしており、積極的に意見を発表する様子が見られた。様々な場面で、規範意識が高く元気に挨拶できる人間性を持った生徒が育っている。 ◆これからも行事等を通して、自立心や自律性など、生徒の育成に力を入れていく。また、道徳科の授業改善に努めていく。	教職員	8	100%	2	11	0	0	
		目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。グループ学習やICTを活用した授業展開など、多様な手立てにより意見を交換できたこと、また、様々な学校行事を通して豊かな人間性を育成できたことが高評価につながったと思われる。 ◆今後も授業をはじめ、すべての学校生活において道徳教育の充実を図る。今年度は、道徳科の研究授業が減ったため、学期に一度を目標に、研究授業に取り組む必要がある。	教職員	8	100%	3	11	0	0	
						生徒	8.9	93%	109	118	13	4	
						生徒	8.9	96%	129	91	7	3	
	特別支援教育の推進	配慮が必要な生徒を、学校全体で支援している。	中間期	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。特別支援学級・通級指導教室での支援はもちろんのこと、生徒同士が互いの個性や違いを認め、助け合いながら学校生活を送ろうとする姿が見える。 ◆教職員一人一人の気付きを組織全体で共有し、あらゆる場面で適切な生徒支援が行えるように努める。また、発達障がいを含む障がいの特性について、教職員全体が一層理解を深める必要がある。	教職員	9	87%	4	9	1	1	
		目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇中間期同様、評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価とした。中間期の改善策を意識し、日頃から情報共有を心掛けた。その際、生徒の成長や頑張りについても共有したことは、有効であったと考える。 ◆今後も、配慮に関する情報のみでなく、生徒の成長や頑張りに関する情報共有を継続する。そして、生徒や保護者との信頼関係を築きながら、支援を進めていく。	保護者	6	97%	15	62	2	0	
						生徒	10	96%	64	53	5	0	
						教職員	9	86%	6	6	2	0	
人権・推進教育の	学校生活を通し、人権意識の高い生徒を育てている。	中間期	A	◇教職員、保護者、生徒いずれも、90%以上の肯定率である。学校生活では、落ち着いた雰囲気様々な活動に臨んでいると考える。 ◆今後も引き続きSNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめに十分に配慮し、人権意識の高い生徒の育成に今後も努めていく。2学期の校区別人権同和教育懇談会へ向けて、計画的な取組ができるよう校内研修等で共通理解を図る。	教職員	10	93%	2	12	1	0		
	目標値:アンケート結果80%以上肯定	年度末	A	◇中間期同様、評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。今学期は学校行事で他学年と関わる機会が多かったが、3年生を中心に集団の結び付きを深め、互いに認め合い、落ち着いた雰囲気活動することができたと思える。 ◆引き続き、SNSやメールでの誹謗中傷、悪口等のいじめに十分に配慮するとともに、機会を捉えて人権課題を取り上げ学び合うなど、人権意識の高い生徒の育成に今後も努めていく。	生徒	11	98%	66	53	2	1		
					教職員	10	93%	3	10	1	0		
					生徒	11	97%	70	42	2	1		
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> 全項目にわたり、非常に高い肯定率になっており、学校の日頃の取り組みを高く評価したい。 生徒が安心して楽しく学校生活を送れていることに感謝したい。 このまま高い評価が続くよう努めていただきたい。 「生徒の健全育成」は、教職員と生徒との意識にずれがあるのではないかな。生徒のC,Dの評価がゼロになることを目指してほしい。 一人であってもD評価があるのは気になる。 				学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導をはじめ、道徳、特別支援教育、人権・同和教育の充実を更に目指し、学校生活全般にわたって生徒指導の徹底と生徒の健全育成に努める。 2学期に行われる様々な学校行事を通して、生徒の良さを生かした活動を充実させ、学校教育目標の主体的に行動する生徒の育成に努める。 C、D評価の生徒に対しては、あゆみや普段からのコミュニケーションを大切にして生徒理解に努め、生徒と教師との信頼関係の深化を図る。 							
学校運営協議会委員の所見(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> いずれの項目も高い肯定率になっており、日々の取組を評価したい。生徒には学年末まで楽しく学校生活を送ってほしい。一方で、D評価の生徒も依然として存在している。すべての生徒が安心して、生き生きと学べる学校を目指してほしい。 見方・考え方を深めさせるにはグループ学習は効果的であるが、個人の微妙な心の動きが捉えにくいのではないかと考える。引き続き、生徒の優しさや温かさ、思いやる心等をしっかり表現できるように取り組んでほしい。 				学校の対応(年度末)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒は様々な課題を抱えながら生活しているが、教職員との関係は良好であり、引き続きこの関係を維持しながら、安心・安全に学校生活を送ることができるよう指導または支援を行っていく。 話し合い活動においては、グループ学習が効果的になされ、生徒同士の対話的な学びを深めることができている。これらを継続するだけでなく、生徒個人の見方・考え方の成長を見取ることができるように丁寧に対応していきたい。 							

令和5年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数		到達率									
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				教職員14 生徒115 保護者101 地域住民46		[肯定評価(A,B)の割合]		アンケート結果(人数)							
重点目標	評価指標及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇>及び改善策等<◆>				評価資料		A	B	C	D	?	
健康	健康教育の推進 基本的な感染予防対策や食育指導、保健指導等を通して、健康的な生活をしようとする生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	B	◇生徒の評価が80%未満のため評価は「B」とした。「早寝早起き朝ごはん」の状況について、生徒の毎日の個人健康観察から、起床時刻にはあまり問題を感じないが、朝食摂食状況は99%である。また、就寝時刻については、未調査ではあるものの、日頃の様子から遅くまで起きている生徒が多いのではないかと推測される。 ◆就寝時刻についても調べたり、食事、睡眠などについて連携した指導を行い、正しい生活習慣の定着を図る。				教職員	11	87%	5	8	2	0	
		年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価とした。栄養教諭による配膳室前の食育掲示は、生徒たちがよく見ており、効果的な食育指導の場の一つとなっていると思われる。また、課題であった睡眠については、生徒保健委員会の活動でアンケートを行った。アンケートを行うことで、生徒たちは自分の睡眠について振り返ることができたのではないかなと思う。 ◆D評価の生徒が増えている。生徒保健委員会の睡眠を中心とした生活リズムの改善について集会を実施し、正しい生活習慣の意識付けを図る。また、給食時にもよりよい生活習慣などについて継続した指導を行っていく。さらに、食育だより、保健だより等で家庭への啓発・連携を図る。				教職員	11	93%	1	12	1	0	
	安全	防災教育の推進 防災教育を進め、安全・防災意識の高い生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇いずれも肯定率は80%以上であり、目標を達成することができた。生徒は、校内での訓練だけでなく、町の訓練にも適切に行動することができた。そのような姿勢が、保護者や地域住民の意識にも影響していると思われる。また、久しぶりに交通安全教室において実技を実施することができたことも、安全意識の向上につながったと考える。 ◆日頃から「自助」の意識を高めるために、登下校や熱中症対策など、日常の安全に対する指導の充実を図る。また、計画的に防災学習に取り組むだけでなく、保護者や地域、幼小と連携した訓練や減災学習に取り組む。				教職員	12	93%	2	12	1	0
			年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。特にオープンスクールを軸に防災学習に取り組み、保護者・地域住民にも公開できたことが好評価を得たものと考えられる。ただ、地域住民へは、学校通信による活動の周知と学校評価の調査が前年度より、「分からない」の回答につながったものと思われる。 ◆今後も、生徒の発達段階を踏まえた系統的な取組を計画・実践していく必要がある。また、幼小との連携が十分でないため、「避難訓練担当者連絡会(仮)」等の発足も検討しなければならない。本校単独での避難訓練では、校内にとどまったうえで、安全確認・安否確認訓練等の新たな段階の訓練も検討する。				教職員	12	100%	6	8	0	0
推進	部活動の充実 部活動に先進で参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇制限が緩和された中で部活動運営が始まった。合同チームや規定人数ギリギリでの対外試合に出場する部活動があり、日々の練習から工夫した部活動運営が大切となる。目標を持った活動を各部で継続することが、学校全体の部活動の充実につながると思う。部活動を通して、規律ある学校生活の基盤を育てていけるよう支援していきたい。 ◆保護者・生徒において否定的回答が見られたが、部員不足や合同チームに関する課題、各部の目標設定に関する課題が関係しているのではないかと。今後も生徒数減少となる中で、部活動の編成について考えていかなければならない。地域部活動への移行を視野に入れた運営を実施していかなければならないが、配慮を要する生徒への対応など現状は難しい。				教職員	13	100%	5	10	0	0	
		年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。理由として、①休まず活動に参加②技術、表現力、体力等の向上を実感③目標を達成、などの理由が考えられる。その一方で、保護者・生徒の中には低評価も見られる。中間期と同様に、部員不足によって、満足のいく活動ができないと考えている保護者が少数存在しているのではと考える。 ◆各部で新チームとしての集団づくりも進んでいる中で、規律や集団づくりの面を重視することはもちろん、個々や集団の目指す目標設定を見直すことが更なる部活動の充実につながると思われる。また、合同部活動、拠点校制度等の導入など、部活動の地域移行への動きが今後どのように変わっていくのか注視し、対応する必要がある。				教職員	13	100%	5	9	0	0	
	学校運営協議会委員の所見(中間期)			学校の対応(中間期)	・健康教育の推進について、食事や睡眠だけでなく、スマホや携帯の使い方指導等も含めた健全な生活習慣の定着に向けて、家庭と連携しながら総合的に指導していく。 ・防災学習や避難訓練については、保護者や地域住民が参加しやすい機会を捉え、それに向けて企画・運営していく。 ・部活動については、保護者・地域・関係諸機関と連携しながら地域部活動へのスムーズな移行ができるよう取り組んでいく。				保護者	9	89%	29	41	6	3
				学校の対応	・家庭での生活習慣が学校生活や学習に影響を及ぼしていることを踏まえ、保護者との信頼関係を構築しながら、各種通信や懇談会等あらゆる機会を捉えて、ともに生徒を育てるというスタンスをもとに、更に連携を図っていく。 ・防災学習は、意識の高まっている現状を生かして、自助・共助について学びを深めていきたい。また、幼小や地域との連携については、単独で動くのではなく、「実行委員会」などを設立し、共同・連携して活動が実施できるように働き掛けていく。				地域住民	13	93%	18	21	3	0
学校運営協議会委員の所見			学校の対応	・文化系・体育系などすべての活動において頑張っていると思う。 ・オープンスクールでは、生徒が防災学習に真剣に取り組む姿が見られた。能登半島地震が発生し、防災への意識も高いと思う。幼小との連携や地域住民と一緒に活動など、防災教育には一層力を入れていただきたい。 ・登校しているからといって家庭での生活習慣が大丈夫とは分からない状況が増えている。学校側が家庭にどこまで介入できるかも大きな課題である。				生徒	17	92%	54	58	8	2	

令和5年度 学校評価表(年度末)

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない				回答数		到達率 [肯定評価(A,B)の割合]						
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)				教職員14 生徒115 保護者101 地域住民46		アンケート結果(人数)						
重点目標	評価指標及び目標値	期間	評価	学校による考察<◇> 及び 改善策等<◆>		評価資料						
							A	B	C	D	?	
特色ある学校づくり	愛さつ城辺の推進 あいさつがよくできる生徒を育てている。	中間期	A	学校による考察<◇> 及び 改善策等<◆>	◇達成率が90%を超えているためA評価にした。生徒は、半数近くが肯定的な評価をしている。 ◆地域の方々の結果を見るとC以下の評価が見られる。今年度、朝のあいさつ運動のやり方を変更した。昨年度の反省を生かし、学校内だけでなく、小学生や地域の方々との交流を図ればと考えている。また、生徒に十分には浸透していないため、今後も活動を継続していきたい。	教職員	14	100%	3	12	0	0
			保護者		10	96%	20	56	3	0		
		地域住民	11		93%	18	24	2	1	5		
		生徒	12		98%	62	57	2	1			
	年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価とした。生徒会役員が工夫を凝らし、「やらされるあいさつ」から「自分たちから気持ちの良いあいさつができる」ことを目指して毎週のあいさつ運動を行った。また、地域の方々にもその姿が伝わればと、学校周辺でのあいさつ運動も行った結果が表れたと思われる。 ◆大きな数値での変化や向上は見られないが、今後も継続した取組と生徒の主体的な活動を充実させることで、保護者や地域の方々へ発信ができればと考えている。		教職員	14	100%	3	11	0	0	
		保護者	10		91%	23	69	9	0			
		地域住民	11		93%	18	20	2	1	5		
		生徒	12		97%	59	53	2	1			
行事・諸活動の充実	感動のある学校行事や生徒の成長を図る活動が行われている。	中間期	A	◇生徒、保護者、地域住民、教職員の肯定的な回答がすべて80%以上であるため、評価をAとした。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受けて制限が解除され、ほとんどの行事が開催された。そのため90%以上の高評価につながったと考える。コロナ禍以前までとは言わないが、生徒は予定通りに行われる行事に集中して取り組み、充実感や満足感を得ることができていると思われる。 ◆今後の状況によっては、一時的に制限がかかる可能性がある。しかし、どのような状況でも生徒が主体的に考え、挑戦し、活動できるよう教職員がサポートをしていかなければならない。	教職員	15	93%	3	11	1	0	
			保護者	11	100%	34	45	0	0			
		地域住民	12	100%	19	22	0	0	9			
		生徒	13	97%	70	48	4	0				
	年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価とした。2学期以降も制限が解除されたことにより、ほとんどの行事が開催された。そのため90%以上の高評価につながったと考える。2学期の行事についても、生徒は予定通りに行われる行事に主体的に挑戦・集中して取り組み、中間期以上の充実感や満足感を得ることができたと思われる。 ◆保護者、地域住民の肯定率が100%から96%等に低下している。様々な行事を参観していただく手立て等を考え、より多くの保護者、地域住民の参加を促していかなければならない。	教職員	15	93%	3	10	1	0		
		保護者	11	96%	36	61	4	0				
		地域住民	12	98%	17	23	1	0	5			
		生徒	13	98%	80	33	1	1				
家庭・地域との連携	情報発信や参観日、懇談会などを通して開かれた学校づくりを実践している。	中間期	A	◇教職員・保護者・地域住民・生徒のいずれも目標値を超えているためA評価とした。参観日や各種大会での観覧等で制限がなくなり、学校の教育活動に対して、直接参加できる機会が戻ってきたからだと考えられる。一方で、生徒の中には、各種通信を保護者に確実に届けていない様子が見られ、そのため学校の取組が保護者に十分に伝わっていない家庭があると思われる。 ◆学校行事等に参加できる機会が戻ってきたため、ホームページや各種通信だけでなく、生徒の様子を直接見てもらえるように、早めにお知らせや案内を配付し、より多くの保護者・地域住民の参加を促す。	教職員	16	100%	7	8	0	0	
			保護者	12	94%	23	51	5	0			
		地域住民	13	98%	27	20	1	0	2			
		生徒	14	89%	71	37	10	4				
	年度末	A	◇評価者のいずれもが目標値に達しているためA評価である。特に2学期は、運動会応援合戦や文化祭合唱コンクールなどの動画がホームページで視聴できたことが高評価を得たと思われる。このことは、記述による評価から推測できる。一方、生徒の中には、各種通信を保護者に確実に届けていない様子が見られ、保護者の評価(人数)との相関があるものと思われる。 ◆これまでの取組を継続する。今回の学校評価において、中間期よりも保護者の解答人数が増えたのは、学校評価の案内を封筒にて配付した効果だと思われる。この成果を踏まえ、今後も確実に周知・連絡できるような工夫を施す。	教職員	16	100%	9	5	0	0		
		保護者	12	89%	33	57	11	0				
		地域住民	13	100%	25	19	0	0	2			
		生徒	14	90%	63	40	10	2				
学校運営協議会委員の所見(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事では城中生らしさが発揮されており、生徒の達成感も大きいと思われる。更なる積極的な取組を期待したい。 行事については、1増2減の「精選と選択」の方向性で良いと思う。 今後も、ホームページや通信で、学校の様子について情報発信してほしい。 ホームページでは、新たに動画も取り入れるなど工夫が見られた。 考察や改善策の文章表現を統一するとよい。 				学校の対応(中間期)	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、充実した学校行事を推進するとともに、生徒の主体性を大切にした、達成感のある活動となるよう努める。 学校行事だけでなく、様々な取組や生徒の成長の様子を、ホームページや各種通信で、随時、情報発信していく。 文章表記については、年度末学校評価において改善する。 						
	学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動等は城辺中学校の伝統的な活動なので今後も引き続き頑張ってもらいたい。 学校行事では、生徒が主体的に生き生きと活動していて感心した。 行事や日々の授業を積極的に公開できていて、学校だよりやHPも工夫が見られる。開かれた学校づくりにつながっている。 生徒のしつけなど、すべてを学校が負う必要はない。そのために、家庭でのしつけなどを学校から保護者へ教えることも必要な時代になってきていると思う。 				学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や学校行事などで生徒が頑張っている姿を評価していただき、ありがたいと感じる。一方で、改善すべき課題もあるため、生徒の主体性を生かしながら、よりよい活動となるよう取り組んでいきたい。 学校通信やHPでの活動紹介を継続しながら、年に一度は来校して生徒が頑張っている姿を直接参観してもらえるような働き掛けを探していきたい。 しつけについては、各種通信や懇談会を通して依頼するだけでなく、PTA研究大会や講演会など外部講師による啓発等も検討していきたい。 					